

# 新たなパークマネジメントの担い手

## 公園を拠点に「持続可能な地域づくり」を目指すみどりの中間支援組織

写真・資料=特定非営利活動法人NPO birth

特定非営利活動法人NPO birth（以下、NPO birth）は、狭山丘陵エリアの5つの都立公園と武蔵野エリアの8つの都立公園、多摩部エリアの4つの都立公園、そして西東京市の市立公園群（54公園）の管理運営業務を企業や他のNPOとパートナーシップを組み合わせている。都立公園の指定管理者の評価では、昨年度の最高評価を受けた6施設のうち3つが、NPO birthが携わっている公園であった。公園の指定管理というとNPO birthの名前が必ずと言っていいほど話題にあがる。その手法は各方面で発表されているが、弊誌では佐藤留美事務局長にNPO birthの誕生からお話をいただいた。NPO birthの活動の原点や想いを知ることが公園の管理・運営に望む際の指針になるのではと考える。（編集部）



「Sunday Park Cafe」（都立武蔵国分寺公園）。公園でコミュニティカフェを開催したい市民が企画し、春・秋の毎週日曜日に開催。地元の野菜を使った食事を提供し、地域のアーティストなどが週替わりでワークショップやパフォーマンスを展開。「あつたらしいなをみんなで作る公園プロジェクト」の一つで、市民の想いを形にする場として定着している。

## NPO birthのみんなに愛される公園づくり

### 住みよいまちは、公園力が違う

都市のオープンスペースである公園には、まちを魅力的にするさまざまな力がある。NPO birthは公園力を磨きをかけ、より豊かで快適なサステイナブルなまちづくりに貢献することを目指している。



### 3つのチームの総合力で磨きをかける

NPO birthは、3チームそれぞれの専門性を活かし運動することで大きな力を発揮する。この3チームの総合力こそがNPO birthの力である。

#### レンジャー・環境教育チーム

公園緑地に関わる安全管理や自然環境の課題を解決し、多くの人々に自然の大切さを伝え、自然を守り育てる人材を育てる。

- ① バトロール：危険・異常箇所確認・応急対応、利用指導、啓発
- ② モニタリング：動植物の確認記録、利用者動向把握
- ③ 環境教育：自然解説、各種体験教育プログラム実施



#### 自然環境マネジメントチーム

都市の生物多様性を高めるため、科学・社会・文化など多角的な面からアプローチし、自然豊かな公園緑地を実現する。

- ① 生物多様性の保全管理・計画の立案
- ② 希少生物の保護・増殖、外来生物の防除
- ③ 環境政策の提言、コンサルティング



#### 協働コーディネートチーム

公園緑地のポテンシャルを最大限に活かすため、多様なステークホルダーの力を集め、協働による相乗効果で公園力を高める。

- ① ボランティア活動の推進、コーディネート
- ② みどりに関わる講座・イベント・ワークショップ企画運営
- ③ 産官学民との連携推進



岸田んぼの福刈りでの記念撮影（都立野山北・六道山公園）。東京で最大の里山公園（200ha）には、雑木林や水田が広がり、年間のべ7,000人のボランティアが活動している

### パークマネジメント事業 (指定管理事業)

NPO birthは、平成18(2006)年度から、公園緑地の指定管理者として、都立・市立公園においてパークマネジメント事業に取り組んでいる。最大の強みは、長年の経験から培ってきた「現場力」。各分野のプロフェッショナルが所属する3つのチームの力を総合して、それぞれの公園力を引き出し、地域活性化につながる運営管理を行っている。

### パークコーディネーター

地域や市民との連携で公園づくりを行う専門スタッフ。公園に多面からのリソース人材や資金、情報などを集めて調整し、活用するという一連のマネジメントを行っている。業務は多岐にわたり、地域連携のイベントやセミナー企画、ボランティア活動の立上げや支援、学校の総合学習、大学や企業の社会実験、企業の社会貢献活動の受け入れ、福祉施設との連携、協議会の運営など、幅広く産官学民との連携を創出している。公園と地域のポテンシャルを最大限に発揮させ、人々をつなぎ、新たな活動や事業を生み出す役割を担っている。

### コミュニティガーデン事業 (パートナー：NPO法人Green Works)

「地域の庭」であるコミュニティガーデンを地域住民とともに創出する事業。みんなで考えて、つくって、みんなが楽しめるガーデニングを実践。宿根草と一年草の組み合わせにより、一年中美しいローメンテ・ローコストの花壇づくりを行っている。講座やワークショップを通して、公園のガーデンボランティア育成のほか、老朽化した公園や団地再生事業におけるコミュニティ醸成、駅前の活性化などの事業を展開している。

### コンサルティング・研修

緑地の管理運営や利活用全般について、3チームの専門性と総合力で、自治体や企業、市民団体等からの相談に応じ、実行力を伴った解決策を提案している。異なるセクター間の協議の仲介、ワークショップの開催、自治体や企業向けの職員研修も行っている。

### パークレンジャー

公園を日々パトロールしながら、動植物のモニタリング調査や安全確認を行っている。自然への造詣が深く、来園者に季節の見どころ情報を伝えたり、自然解説や展示などの普及啓発(インタープリテーション)を通して、地域の自然や歴史の魅力を伝えている。自然体験を中心とした教育プログラムでは、学校の総合学習やキッズレンジャー事業など次世代の育成にも取り組む。救急対応や接遇トレーニングを受け、危険個所の点検や利用指導も行う。

### パークエコロジカルマネジメント

技術士やビオトープ管理士など専門知識を持つスタッフが、地域生態系を守り生物多様性を向上させるための保全プランを策定し、適正な管理を実施。生きものの生息地を創出するビオトープの設置、絶滅危惧種の復元、在来種の保護、外来種の防除等を行っている。かいぼり事業では、全国50か所以上の池での実績があり、水質や環境改善の相談に応じている。

### 森づくり講座

都市近郊の里山地域や都市部の公園や市民緑地、企業緑地等を対象に、樹林地の保全管理、活用について学び、実践する講座を開催。森の見方、動植物の知識、コンセプトや活動計画の策定、作業の安全管理など、森づくりの基本をトータルで学ぶ機会を提供。受講後にはボランティア活動を紹介するなど、実践へつなげるサポートも行っている。

### 施策への提言

緑の基本計画や都市計画マスタープラン、各種懇談会など、行政施策に関する委員会の委員として、都市緑地の利活用の方策や中間支援組織の必要性などを提言している。



地域住民とのコミュニティガーデンづくり (JR中央線高架下)



生物多様性向上の取組み



森づくりの人材育成講座

## 佐藤留美氏

特定非営利活動法人NPO birth 事務局長



「こもれびピクニック」(都立陵南公園)。緑に包まれたピクニックエリアで、地域のアーティストや市民グループによるワークショップを展開

### NPO birth の原点

私は仙台出身ですが、大学進学のために上京し、初めて暮らした東京の緑の多さに驚きました。それまで、東京は無機質のコンクリートジャングルというイメージしかありませんでしたが、実際の東京は奥多摩の山々から丘陵地帯、そして背骨のように走っている崖線があり、そこから湧き出す湧水がつくる小川がある。住宅地にも畑や森が点在していますし、都心には皇居や庭園などのダイナミックな緑空間がある。海沿いや島しょ地域も含め、東京の多様な自然の豊かさに感動しました。そんな中、東京にある緑地がどんどん姿を消していく現状を知りなんとかしたいと、「身近な自然の価値」をテーマに論文を書きました。すぐお金に変えられる価値だけが重要ではなく、その場にしかない「地域性」、つまり暮らしと結びついた自然と人との関係性こそが価値であると論じたのです。そのような地域に根付いた関係性を、もう一度つなぎ合わせるにはどうしたらよいのだろう。その思いが、NPO birthを設立した原点となり、いまの活動につながっています。

その答えを探すべく、大学卒業後はいくつもの市民活動に参加していました。当時は開発対保護という対立の構図がありましたが、1993年にバブルが弾け開発のスピードが少しゆっくりになり、また持続可能性をテーマと

した地球サミットの影響も受け、緑の保全に対する人々の価値観が変わりつつありました。市民団体も開発を反対するだけでなく自分たちで何かできないかと考えるようになり、自然環境の調査を市民で行い、農家が放棄した緑地を借りて自分たちで田んぼをつくったり、雑木林を維持したりという活動も始まりました。このような地道な保全活動には市民の力が欠かせません。そこで市民団体の事務局をボランティアで担い、会を発展させようと努力した結果、会員数は倍増していきました。しかしそれとともに、一ボランティアには手に余る責任と事務作業ののしかかり、活動の幅を広げるには限界があると思いはじめました。一方、各地では都市近郊の開発問題に悩む市民団体も多くあり、これらの団体をつなぎ支えるネットワーク的な活動も求められていました。さらに行政側も、都市の自然を守り育てるには市民の力が必要だと「パートナーシップ=協働」を掲げ、関係づくりを模索しはじめていました。このような背景の中、中間支援的なマネジメントをプロとして担う別組織が必要ではないかと考えていた折、1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに特定非営利活動促進法(NPO法)が制定に向けて動き出したのです。そこで同じ思いを持って一緒に活動をしていた現代表理事の折原磨守男、現理事の蜂須賀公之と共に、

自分たちが目指すべき組織はNPOというあり方がフィットするのではないかと話し合い、1997年に任意団体「NPO birth」を立ち上げました。この「birth」という名称は、「時代を切り拓く何かがいま必要である。その何かを生み出したい」という想いを込めて名付けました。その後NPO法が施行され、行政からも協働事業のパートナーとして期待される中、2001年に法人格を取得し「NPO法人 NPO birth」を設立しました。

この時期に出会い、活動を進める上で大きな勇気をくださったのが、1970年代に「都市の自然史(1974,中央公論社)」を書かれた品田稯先生です。先生はいちはやく、人間と自然のかかわり合いに着目し、都市のあるべき姿を問いかけ続けていました。やみくもに自然を守れと叫ぶのではなく、緑地を所有する側の悩みに寄り添い、共に解決しようとする私たちの姿勢に賛同し、背中を強く押してくださいました。

### 活動の目的は持続可能な地域づくり

当時、公益財団法人日本野鳥の会の常務理事だった品田先生の薦めもあり、NPO birthは同会と連携し、公益財団法人日本財団より助成を受け、2000年に「里山タスクチーム」というプロジェクトチームを結成しました。私たちのテーマは「持続可能な地域づく

り]です。日本の伝統的なスマートシティとも言える「里山」にある仕組みを明らかにし、現代社会に適用することで、サステナブルなまちづくりを実現できるのではと考えたのです。メンバーは同じ問題意識を持つ、東京都や横浜市、財団やコンサルタントの職員などが中心でした。都市や近郊の緑地をベースに、コミュニティ形成など新たな価値の創出に取り組む農林業者や市民団体、自治体の事例を調査し、議論を深めました。

その成果として、2002年に代表理事折原氏との共著で「環境入会（いりあい）に関する一考察」という論文を発表しました。「環境入会」とは、品田先生が2001年に提唱した概念であり、著書の「ヒトと緑の空間-かかわりの原構造（2004,東海大学出版会）」でも論じられています。里山にある「入会（いりあい）地」は、薪炭や肥料用の落ち葉、屋根を葺くカヤなどを採取する、村民が共有する土地のことです。共有地での共同作業やお祭りなど

を通して、人々はコミュニケーションを深め、暮らしの糧を得て、助け合って暮らしてきました。そこでは、自然環境をベースに、社会コミュニティを醸成することで、経済活動が成り立つという持続可能な仕組みがありました。

そこでこの論文では、現代における入会の考え方を「環境入会」として、都市や近郊の緑地空間-公園や農地、森、空地などを現代の入会地として定義し、そのポテンシャルを最大限に引き出すことで持続可能な社会を形成することができると論じました。都市に存在または創出する自然資源を地域の主体とともに利活用することで、コミュニティが醸成され地域経済の活性化が図られるとしたのです。さらにこれら共有地の秩序を維持・発展させるために、「価値観」「役割」「規則」という3つの枠組みを定義しました。持続可能な都市づくりのために緑地の必要性を認識し、利活用を促進しようという「価値観」が根付くことで、自ずと緑地に関わる地域主体の「役割」や、制度やルールなどの「規約」が規定されます。本論文では、これらの枠組みを方向づけ、共有化させていくために全体をオルガナイズ（組織化し方向づける）する役割として、インターメディアリーな中間支援組織の必要性を提示しました。

### 中間支援組織のモデルを探して

里山タスクグループの事業を進める一方で、私たちは中間支援組織として立ち上げたNPO団体を、どのように運営していくのかという課題を抱えていました。国内に

は先進モデルが見つからず、試行錯誤で活動を進めていた折、海外のNPOへのインターンシップ・プログラムがあることを知りました。派遣先は、アメリカでもっともNPO活動が盛んと言われる、サンフランシスコ市やパークレー市のあるベイエリア地帯です。ここでの経験は期待をはるかに超えるものでした。日本では、NPOは市民ボランティア団体が法人化したアマチュア組織という見られ方をされがちですが、米国では中間支援的な役割を果たすプロフェッショナルな団体と認識されていたのです。公園緑地での官民連携事業はもちろん、街路樹をGISで管理する技術、ヘルシーパーク事業、都市菜園のネットワーク化などが、すでに社会実装されていて、見るものすべてがこうあったらいいと思う理想ばかりでした。これは自分一人で見て聞いているだけではもったいないと、いくつかの基金から助成をいただき、里山タスクグループの調査チームを派遣しました。さらに2年にわたる日米NPOの交流事業にも発展させ、両国で国際フォーラムを開催しました。その最中に参加したニューヨーク市での国際シンポジウム「Great Parks, Great Cities（2001年）」では、異なるセクター同士が熱くディスカッションする姿を目の当たりにし、圧倒されました。しかもこの大きなイベントは、プレイスメイキングの取組みを進めるNPOが中心となって企画運営されていたのです。「みどり」を基盤に、多くの人々の力と知恵を結集さ

せ、事業を推し進めるアメリカのNPOの実行力に触れたことで、日本における、みどりの中間支援組織の未来像を描くことができました。

### 「みどりのまちづくり」が世界の主流に

「環境入会論」を発表してから20年近くが経ち、気候変動や少子高齢化、コミュニティの喪失など、さまざまな都市問題がより深刻となる中で、ここで論じた入会の仕組みが、まさに必要とされる時代になったと思います。NPO birth設立後、ニューヨーク市はじめ、ロンドン市やメルボルン市、ソウル市など、各地での国際会議への参加や視察を続けていますが、海外の状況を知れば知るほど、自然を基盤に都市再生を目指す「みどりのまちづくり」が世界の主流になっていることを実感するからです。どの都市も「みどり（Greener）」と「官民連携

（Partnership）」に力を入れることで都市問題の解決にあたり、まちを甦らせる起爆剤として都市の緑地を最大限に活用しているのです。

ここ数年で、日本でも緑地を「グリーンインフラ」として社会の必須インフラと位置づけ、その多様な機能を持続可能な地域創出のために活用しようという動きが、産官学民、さまざまな主体から発信されるようになりました。2018年には都市公園や緑地に関わる法律が改正され、今年3月には国土交通省により「グリーンインフラ官民連携プラットフォーム」が発足しました。さらに新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、身近な公園が緑分野のみならず、都市計画や健康福祉、教育や防災、産業振興などあらゆる分野の主体から注目されるようになってきました。ヨーロッパを中心に「グリーンリカバリー」政策が次々に発

表されており、日本でも経済の回復と緑の回復を軸に取り組みむべきとの声が上がりが始めました。環境入会論で提示した、自然をベースに社会コミュニティを育むことで経済活性化が図られるという価値観が、産業界まで広く浸透しつつあるのです。逆の見方をすれば、これだけの危機が起こったからこそ、ギリギリ崖から落ちる間際で逆ハンドルを切ったようなもの。環境入会論の図でいえば、経済が肥大化して自然環境が縮小され、バランスの悪い逆三角形となり倒壊寸前だったと言えるでしょう。

ともあれ、今回の危機を通じて世界中の人々が、都市の高密度化を防ぎ、創造的でイノベティブな生産性を高め、健康的な生活を保証する都市のみどりこそ、持続可能なまちづくりを実現する貴重な共有財産だと認識したのではないのでしょうか。次に必要なことは、この貴重なグリーンスペー



「環境入会」は、地域の自然資源を協働で持続的に活用するためのコンセプト。自然・社会・経済の3つの環境の調和と持続性を保つ条件を、「規則」「役割」「価値観」としている。



「里山キッズレンジャープログラム」(都立野山北六道山公園)。レンジャー体験として、昔の農具を使って落ち葉をさした子どもたち



「ちよいボラDAY」(都立武蔵国分寺公園)。手ぶらで参加できるボランティア体験。花の植え付けは親子に大人気

1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
<ul style="list-style-type: none"> <li>● NPO birth 設立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本野鳥の会主催「甦れ！里山」シンポジウム企画</li> <li>● NPOと行政の連携「ボランティア活動」についての講演</li> <li>● 日米NPOインターンシッププログラム(JUCEI)参加</li> <li>● 都立野山北六道山公園開設イベントの企画運営</li> <li>● BTV(英国)の環境保全(NPO)との意見交換会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 緑地保全戦略ネットワーク事業「里山タスクグループ」発足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地球環境パートナーシッププラザ(環境省・国連大学)との連携事業「パートナーシップによる持続可能な社会づくりの支援」企画構築事業</li> <li>● 東京都都市緑化連絡会「都市公園における市民活動の可能性」と課題」講演</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特定非営利活動法人格の取得</li> <li>● 「サンフランシスコ市の環境保全と中間支援NPOの取組み」調査報告書発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地球環境基金助成事業「持続可能な地域づくりのための拠点づくり調査事業」</li> <li>● 「環境入会に関する一考察」発表(自然環境復元協会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 茨城県自然博物館助言者就任(継続中)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 愛・地球博「地球市民村」にて「まちに地みどり館」企画運営</li> <li>● 明治大学「里山」コーディネーター講座」講師</li> <li>● 東京都自然体験プログラム「大自然塾」(都立水元公園)</li> <li>● 江東区コミュニティガーデン講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京都港湾局「海の森公園」検討委員会委員就任</li> <li>● 「グリーンバル日米交流事業」(米NPO)招聘交流プログラム</li> <li>● 茨城県自然博物館助言者就任(継続中)</li> <li>● 港区水とみどりの施策委員会委員就任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京都立公園指定管理事業「狹山丘陵グループ(4公園)」開始(継続中)</li> <li>● 東京都自然体験プログラム「大自然塾」(都立野山北六道山公園)</li> <li>● 港区水とみどりの施策委員会委員就任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グリーンバル交流事業「平和で持続可能なまちづくりの日欧市民交流」</li> <li>● 教育機関、財団、大学、省庁、市民団体等への講師派遣多数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京都立公園指定管理事業「小峰公園」開始</li> <li>● 県立公園指定管理事業者申請及び管理運営コンサルティング</li> <li>● 三鷹市コミュニティガーデン実務業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京都立公園指定管理事業「武蔵野の公園グループ(12公園)」開始(継続中)</li> <li>● 江東区みどりの「コミュニティづくり講座運営」(継続中)</li> <li>● 東京の緑を守る将来会議委員就任</li> <li>● 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)出席</li> <li>● 練馬区「憩いの森」事業計画策定支援業務</li> <li>● 公園緑地都民協働推進計画策定業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● つくば市葛城地区まじり事業</li> <li>● アメリカンコミュニティガーデン協会主催の国際会議にて事例発表</li> <li>● 東京都の緑を守る将来会議事務局受託</li> <li>● 「PPA国際会議」(スイス)にて事例発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京都立公園指定管理事業「多摩部の公園グループ(4公園)」開始(継続中)</li> <li>● 西東京市立公園指定管理事業(53公園)開始(継続中)</li> <li>● 里山カール養成講座委託業務</li> <li>● 柏市緑の基本計画アクションプラン推進委託業務</li> <li>● 東村山市立北山公園自然環境調査(2017年度は外来種防除業務)</li> <li>● 団地再生のための「コミュニティガーデン」事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京都立公園指定管理事業「池の水ぜんぶ抜く大作戦」出演(継続中)</li> <li>● 「企業」の森づくり入門講座」運営受託</li> <li>● 環境省「狭山丘陵キリノスミニリング業務」(継続中)</li> <li>● 国立療養所多摩全生園を学ぶ講座」(継続中)</li> <li>● 東京都立公園指定管理事業「多摩部の公園グループ(4公園)」開始(継続中)</li> <li>● 西東京市立公園指定管理事業(53公園)開始(継続中)</li> <li>● 里山カール養成講座委託業務</li> <li>● 柏市緑の基本計画アクションプラン推進委託業務</li> <li>● 東村山市立北山公園自然環境調査(2017年度は外来種防除業務)</li> <li>● 団地再生のための「コミュニティガーデン」事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 行政施策に関する委員派遣多数</li> <li>● (練馬区、板橋区、足立区、江東区、西東京市、府中市、東村山市、東大和市、小平市、松戸市)</li> <li>● テレビ東京「池の水ぜんぶ抜く大作戦」出演(継続中)</li> <li>● 「企業」の森づくり入門講座」運営受託</li> <li>● 環境省「狭山丘陵キリノスミニリング業務」(継続中)</li> <li>● 国立療養所多摩全生園を学ぶ講座」(継続中)</li> <li>● 東京都立公園指定管理事業「多摩部の公園グループ(4公園)」開始(継続中)</li> <li>● 西東京市立公園指定管理事業(53公園)開始(継続中)</li> <li>● 里山カール養成講座委託業務</li> <li>● 柏市緑の基本計画アクションプラン推進委託業務</li> <li>● 東村山市立北山公園自然環境調査(2017年度は外来種防除業務)</li> <li>● 団地再生のための「コミュニティガーデン」事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● NPO法人 Green Connection TOKYO 設立支援(継続中)</li> <li>● 都立公園における水辺再生(かいばり)事業</li> <li>● 「フジテレビ」坂上三平「王國」出演(継続中)</li> <li>● 行政施策に関する委員派遣多数</li> <li>● (練馬区、板橋区、足立区、江東区、西東京市、府中市、東村山市、東大和市、小平市、松戸市)</li> <li>● テレビ東京「池の水ぜんぶ抜く大作戦」出演(継続中)</li> <li>● 「企業」の森づくり入門講座」運営受託</li> <li>● 環境省「狭山丘陵キリノスミニリング業務」(継続中)</li> <li>● 国立療養所多摩全生園を学ぶ講座」(継続中)</li> <li>● 東京都立公園指定管理事業「多摩部の公園グループ(4公園)」開始(継続中)</li> <li>● 西東京市立公園指定管理事業(53公園)開始(継続中)</li> <li>● 里山カール養成講座委託業務</li> <li>● 柏市緑の基本計画アクションプラン推進委託業務</li> <li>● 東村山市立北山公園自然環境調査(2017年度は外来種防除業務)</li> <li>● 団地再生のための「コミュニティガーデン」事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調布駅周辺の花いっぱい事業業務(継続中)</li> <li>● 埼玉県立新たな森公園(仮称)における「森づくり活動推進業務」</li> <li>● 小平市市民参加型生き物調査事業</li> <li>● 田無神社ヒートアップ創出「管理業務」(継続中)</li> <li>● 企業緑地等の利活用相談多数</li> </ul>				

スを、都市に関わるみんなで育てて活かしていくための仕組みづくりです。みどりの中間支援組織とは、まさにその仕組みを動かすエンジンであり、これからのまちづくりには欠かせない存在です。

### 緑地活用のプロフェッショナルとして

NPO birthは設立当初より、現場での直接的な業務とコーディネーター的な役割を同時にこなす中間支援組織として成長し、2005年の愛・地球博出展を経て、「みどりのまちづくり」を担うNPOとして内外から認知されていきました。しかし中間支援組織を安定的に運営することは難しく、助成事業中心の綱渡り的な運営から脱皮できたのは、2006年からの都立公園指定管理事業への参画でした。それまでの蓄積をすべて投入したことで、成果は次々にあがっていきました。高齢化して停滞していた市民活動は活発化し、絶滅に瀕する生きものは復活し、地域と連携したイベントには何千人もの人々が訪れ、公園を取り巻くまち全体が活性化しはじめました。都立公園の管理運営状況評価では、毎年最高レベルの評価を獲得し、都市公園コンクール(一般社団法人日本公園緑地協会主催)では、協働型パークマネジメントの取り組みが評価され、国土交通大臣賞をはじめ3つの賞をいただいています。評価が高まるにつれ、緑の基本計

画など行政施策の委員として選任され、人気テレビ番組へのレギュラー出演は環境問題を発信する大きな力となっています。

現在、有給職員数は50名を超え、プロフェッショナルなみどりの中間支援組織として、20年前にアメリカで夢見た姿が実現しつつあります。創設当初、「熱い想い」以外になにもなかった私たちのもとに、たくさんの方々の想いが重なり、力をいただいで、ここまで歩いてこれてきました。そしてこれからの時代は、みどりを軸に分野をまたいだ事業がたくさん始まる予感がしています。新たな同志のみなさんとの出会いがとても楽しみです。

### 「つながり」こそが、身近なみどりの価値を生み出す

NPO birthでは、環境教育・自然環境保全・協働コーディネートの3つのチームが、それぞれの専門性を活かし連動することで公園が持つ潜在力を引き出し、まちづくりに貢献するパークマネジメントを実践しています。「みどりのまちづくり」の基盤となる自然環境は、一番重要な資源です。

自然環境マネジメントチームは、地域に古くから生息する動植物の保全はもちろん、新たに創出する緑地も含めて、地域生態系を重視した生物多様性保全策を提案、実践しています。これらの自然環境の大切

さや魅力を伝え、一人ひとりの自発的な行動へ結びつける役割を担うのがレンジャー・環境教育チームです。パークレンジャーとして、自然解説や体験型プログラムの企画運営、公園の安全を確保するためのパトロールなどを行います。

そして協働コーディネートチームは、中間支援組織であるNPO birthを特徴づけるチームです。緑地に関わる様々なステークホルダーの力を集め、前述の2チームの専門性を活かしながら、協働による相乗効果で公園力を高めます。このチームに所属する「パークコーディネーター」は、指定管理を行う各公園グループごとに2~6名ほどが配置されています。公園があることで人々の暮らしが豊かになり、夢を実現するステージとして市民が公園をつかいこなすために、様々なサポートを行っています。

まちには、公園を活用したい人たちがたくさん存在しているのですが、彼らは何をどうはじめてよいのかわかりません。そこでパークコーディネーターは、「あったらいいなをみんなで作る公園プロジェクト」のように、市民企画のイベントやガーデニング、アウトドアスポーツ、林の下草刈り、焚き火体験、コミュニティカフェなど、さまざまなシーンで、市民がやってみたい、とすることができると提供しています。これにより、公園は「あるもの、使うもの」という受け身の姿勢から、自らが「活かすもの、使いこなすもの」に変わっていきます。公園を通して、仲間と出会ったり、生きものに会ったり、笑ったり感動したり、そんなワクワクする気持ちをみんなで分かち合う。そうやって関わっているうちに、公園や地域の自然がかけがえのないものに思えてくるのです。そこに生じる人と自然、人と人との「つながり」こそが、身近なみどりの価値を生み出してくれる。そしてその価値を感じる人が増えれば、まちにみどりも人の笑顔も増えていく。ニューノーマル時代に選ばれるサステナブルな都市は、きっとそういうまちだと思います。

公園には、そのようなまちを生み出す力があります。その公園力を、これからもまちづくりに関わるみなさんと、大いに引き出していきたく思います。

(2020年7月13日弊社にて。文責 = 編集部)



大人も子どもも踊りだす音楽イベント、「PICNIC HEAVEN」。地域のババグループが企画する大人気イベントは、地元DJやダブルダッチのパフォーマンスで盛り上がる(都立武蔵国分寺公園)



自然解説をしながら散策するレンジャーガイドウォーク。固有種ムサシノキスゲをはじめ100種近い希少種が生息するため、協働による保全管理ガイドラインを作成、運用している(都立浅間山公園)



おいしい防災、たのしい防災をテーマにした「防災キャラバン」は、地域住民や自治体とともに企画し、たくさんの親子が来場する(都立六仙公園)



「ガーデニングDAY そらはなパーティ」では、「花と緑いっぱいパーティ」をテーマに、地元の花弁農家による花苗販売やガーデニング教室を開催(西東京いこいの森公園)



「いこいの森のパークヨガ」は、園内の雑木林の環境を生かしたヨガ教室。女性に人気でリピーターも多い(西東京いこいの森公園)



公園の情報を発信するフリーペーパーやリーフレットは、デザインや広報に工夫を凝らし、地域の魅力も一緒に伝えるなど、ふだん公園に来ない層にもアプローチしている

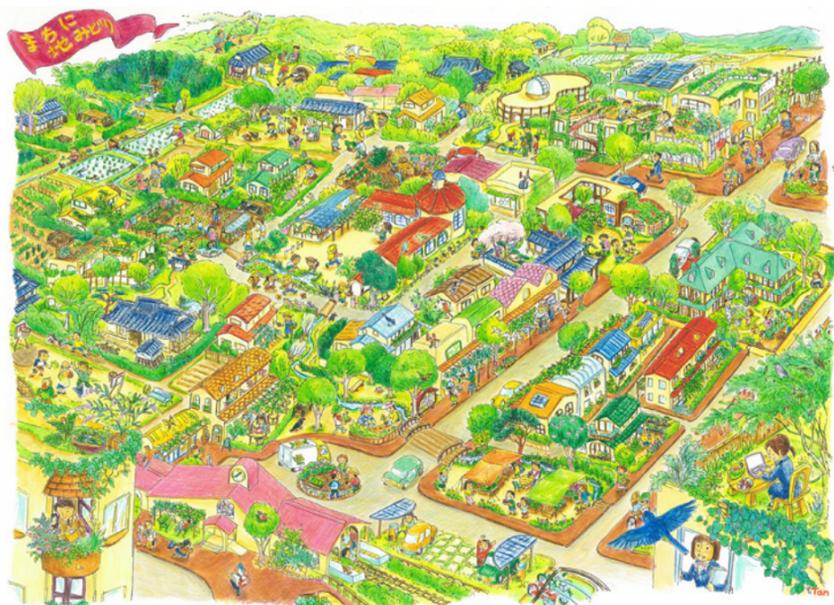
### 【NPO birth 指定管理実績 (2020年度)】

- 狭山丘陵の都立公園グループ(狭山公園、八国山緑地、東大公園、野山北・六道山公園、中藤公園)  
指定管理者:西武・狭山丘陵パートナーズ | 西武造園株式会社(代表企業)、NPO法人NPO birth、西武緑化管理株式会社、NPO法人地域自然情報ネットワーク、一般社団法人防災教育普及協会
- 武蔵野の都立公園グループ(野川公園、武蔵野公園、浅間山公園、武蔵国分寺公園、六仙公園、狭山・境緑道、玉川上水緑道、東伏見公園)  
指定管理者:西武・武蔵野パートナーズ | 西武造園株式会社(代表企業)、NPO法人NPO birth、ミズスポーツサービス株式会社、一般社団法人防災教育普及協会
- 多摩部の都立公園グループ(駿南公園、小宮公園、滝山公園、大戸緑地)  
指定管理者:西武・多摩部の公園パートナーズ | 西武造園株式会社(代表企業)、NPO法人NPO birth、西武緑化管理株式会社、一般社団法人防災教育普及協会
- 西東京いこいの森公園及び周辺の市立公園グループ(54公園)  
指定管理者:西東京の公園・西武パートナーズ | 西武造園株式会社(代表企業)、NPO法人NPO birth、株式会社尾尾造園



準絶滅危惧種「ニリンソウ」の群生地(都立武蔵野公園)

【特定非営利活動法人NPO birth】www.npo-birth.org (twitter, facebook, Instagramでも配信中)



「まちに地みどりマップ」(画/丹星河)。NPO birthの目指す「みどりのまちづくり」のイメージ像。市民一人一人が、楽しく自分ごととしてみどりに関わることで、みどりと笑顔いっぱいのまちとなる。描かれた活動のほとんどが都内での実例をもとにイラスト化している